

証券コード：2397

第21期 事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

株主の皆様へ



代表取締役社長
的場 亮

サポートビジネスに注力してまいりましたが、これからは、長年培った技術を結集し、新しいビジネス、診断事業を展開してまいります。そして、情報化時代に即した、最新の技術を取り入れるとともに、独自技術開発により、がん・免疫疾患・感染症・生活習慣病・精神疾患等の個別化医療実現を目指し、誰もが健やかに、幸せに暮らせるための診断ツール開発を行ってまいります。

■ 当期の経営成績

当期におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う内需の減少がみられたうえで、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による需要の減少や、中国での生産停止が長引きサプライチェーン(部品供給網)が寸断されたことで、輸出企業を中心に景況感は悪化しております。

さらに、訪日外国人客の急減に加え、各種イベントの休止や外出自粛による需要の低迷もあり、新型コロナが終息するまでは、景気の厳しい状況が続くものと思われま。

一方当社が属するライフサイエンス分野は、高齢化や健康・医療ニーズの多様化を背景に需要期待が高まっております。政府も成長戦略の一つと位置付けており、ヘルスケア産業の活性化は今後も引き続き見込まれております。

さらに、がんゲノム医療時代の幕開けと言える話題として、昨年6月に患者のがん細胞の遺伝子変異を調べて、最適な薬を選ぶ「がんゲノム医療」の遺伝子検査システムに公的医療保険が適用になりました。対象になるのは、原発不明がん、標準治療を終えたがんや希少がんの患者で、これまでは限られた医療機関において、自費で高額な費用をかけ、わずかな可能性にかけて検査を受け、使える薬を探っていたものが、公的医療保険を利用して全国の医療機関で広く検査を受けられるようになりました。

このような状況下において、当社は、経営方針を「開発力と事業化加速」と定め、研究受託事業の成長と、診断事業における「EGFRリキッド(EGFR-NGS Checkから名称変更しました。以下同じ。)」のコンパニオン診断の事業化に取り組んでおります。現在、血液を用いて肺がんの遺伝子変異検査を行う、EGFRリキッドをコンパニオン診断として、2019年7月10日に厚生労働省へ承認申請を行いました。承認されれば医療現場での使用が可能となります。当社は、この薬事承認・公的医療保険適用による早期事業化を最優先事項として取り組んでおります。

この結果、当期の売上高は、361百万円(前期比100.3%)、営業損失は

■ ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨今の遺伝子を中心としたバイオテクノロジー技術の進歩は目覚ましく、それらを利用した新しい発見や研究成果などから、医療分野への応用が広がっています。一方で、世界的な超高齢化社会を迎えるにあたり、我々は、労働力の減少、年金や社会保障の問題など、様々な社会問題を抱えています。特に、国民医療費は年々増加し、国の財政の多くを占めており、これを解決するためには、予防医療のための(病気にならないための)新しい診断ツール開発が期待されています。

DNAチップ研究所は設立以来、ライフサイエンス分野を通じて、遺伝子やゲノムのエキスパートとして優れた技術開発をしながら、世の中に役立つ、研究開発、商品開発を行い、サービスを展開してまいりました。これまで、主に研究分野の

123百万円で、経常損失は128百万円、当期純損失は128百万円となりました。

■ 研究受託事業

研究受託事業におきましては、主な事業として受託解析サービスを行っております。大学や公的研究機関、製薬会社等の企業を主要な顧客として、遺伝子関連解析のサービスや解析結果の統計処理のサービスを提供しております。主なサービスは、マイクロレイ受託解析サービスと次世代シーケンス受託解析サービスがあります。共に大学や公的研究機関、製薬会社等の企業に対し積極的な提案型営業を行うとともに、きめ細かなフォローを推進しております。また各種受託解析の実績から顧客の目的に合わせた実験デザインの提案、データ解析及びサポートに力を入れると共に、顧客ニーズに合わせた新規サービスメニューの拡充を図っております。

次世代シーケンスと並び注目を集める遺伝子解析として「デジタルPCR受託サービス」や独自の「再生医療研究分野に向けた間葉系幹細胞の品質評価解析サービス(C3チェックサービス)」等新規サービスを展開しております。

いずれのサービスにつきましても、他社との差別化を意識し、クオリティの高い内容をお客様に提供すべく取り組んでおります。

しかしながら、マイクロレイ受託解析サービスから次世代シーケンス受託解析サービスに顧客のニーズが移る過渡期にマイクロレイ受託解析サービスの売上の落ち込みが見られたこと、また国等からの研究受託が減少したことにより、当期の売上高は、286百万円(前期比90.8%)となりました。

■ 診断事業

診断事業におきましては、血液を用いて肺がんの遺伝子変異を検査する、EGFRリキッドの市場への普及を当社の最優先事項として取り組んでおります。現在この検査の薬事承認、保険収載を目指した活動を行っております。この検査は、低侵襲的な血液遺伝子検査により、血中に微量に存在する血中腫瘍DNA上のEGFR変異を次世代シーケンス法により高感度に検出するリキッドバイオプシー検査です。肺がん組織の生検(気管支鏡検査、CTガイド化生検)は、侵襲性が高く患者さんへの負担も大きいことから、リキッドバイオプシー検査への期待が高まっています。EGFRリキッドに加え、その改良版としてのNOIR-SS技術(分子バーコード技術を用いて高感度かつ正確な分子数測定が可能となる超低頻度変異DNAの検出技術)により、高感度に複数遺伝子を一括解析可能なリキッドバイオプシー遺伝子パネル検査サービスも提供しております。また、リキッドバイオプシー検査に続いて、肺がん組織検査に特化した高感度な一括遺伝子検査パネル(仮称:肺がんコンパクトパネル)を開発中です。コンパクトパネルは、EGFR BRAF ALK ROS1 MET の5つのコンパニオン診断可能な遺伝子と近い将来分子標的治療薬の上市が予定されているいくつかのターゲット遺伝子が対象です。薬事申請に向けて開発を進めております。

その他検査メニューとして、遺伝子解析を用いた関節リウマチの薬剤効果予測検査、うつ病の診断技術の開発も積極的に進めております。

また、EGFRリキッド及びNOIR-SSシーケンスをはじめとしたリキッドバイオプシー解析の独自技術の強みを活かし、研究用途としての検査サービスを製薬企業の試験付随研究・病院等向けに提供しております。

当期の診断事業の売上高は、75百万円(前期比165.2%)となりました。なかでも、EGFRリキッドやNOIR-SSシーケンスサービスの大幅な売上増(前期比188.5%)を達成しております。

2020年6月

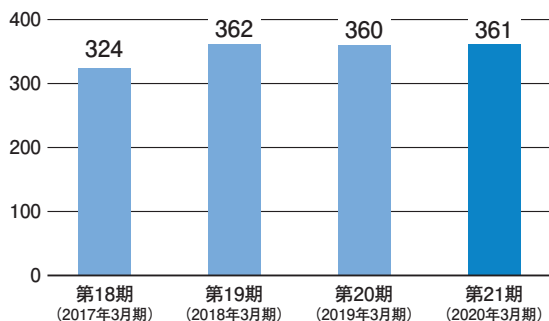
代表取締役社長 的場 亮

Contents

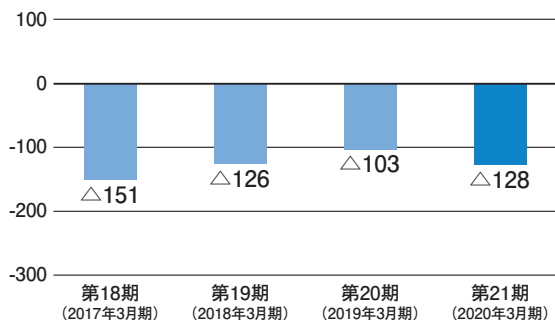
● 株主の皆様へ	1	● 事業の内容	5
● 財務諸表	3	● 会社の概況	6



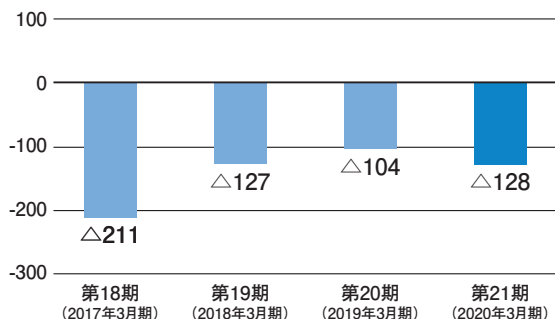
■ 売上高 (単位：百万円)



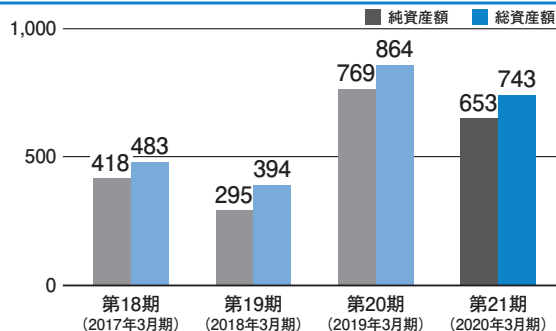
■ 経常利益 (単位：百万円)



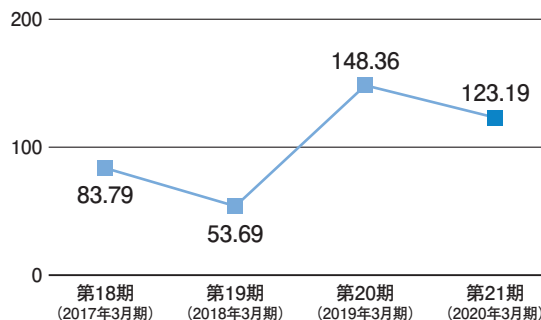
■ 当期純利益 (単位：百万円)



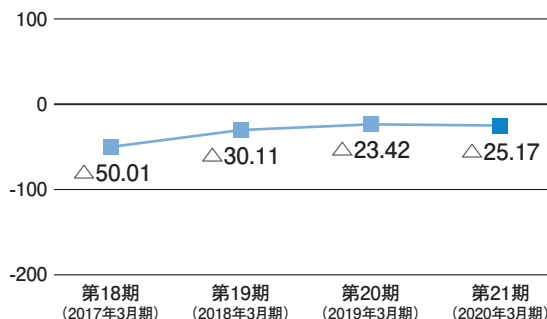
■ 純資産額／総資産額 (単位：百万円)



■ 1株当たり純資産額 (単位：円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位：円)



財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科目	前事業年度 2019年3月31日	当事業年度 2020年3月31日	科目	前事業年度 2019年3月31日	当事業年度 2020年3月31日
資産の部			負債の部		
流動資産	810,360	531,754	流動負債	88,969	82,672
現金及び預金	658,009	302,379	買掛金	48,161	47,462
受取手形	21,977	27,392	未払法人税等	5,150	3,055
売掛金	112,643	138,931	未払消費税等	4,928	—
商品	0	0	未払費用	25,167	27,843
仕掛品	5,909	—	未払金	2,893	3,214
貯蔵品	5,780	9,781	預り金	2,668	1,096
前払費用	5,455	51,563	固定負債	6,636	7,391
その他	583	1,706	退職給付引当金	6,636	7,391
固定資産	54,380	211,642	負債合計	95,606	90,063
有形固定資産	14,933	24,405	純資産の部		
建物	0	7,331	株主資本	755,070	626,979
工具、器具及び備品	14,933	17,074	資本金	416,219	416,219
無形固定資産	35,878	64,354	資本剰余金	443,798	443,798
特許権	578	481	資本準備金	443,798	443,798
施設利用権	0	0	利益剰余金	△104,879	△232,970
ソフトウェア	0	0	その他利益剰余金	△104,879	△232,970
ソフトウェア仮勘定	35,299	63,872	繰越利益剰余金	△104,879	△232,970
投資その他の資産	3,569	122,882	自己株式	△68	△68
投資有価証券	0	0	新株予約権	14,063	26,354
敷金	3,521	44,921	純資産合計	769,134	653,334
長期前払費用	47	77,961	負債及び純資産合計	864,740	743,397
資産合計	864,740	743,397			



損益計算書

(単位：千円)

科目	前事業年度	当事業年度
	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高	360,807	361,713
売上原価	260,945	272,027
売上総利益	99,862	89,686
販売費及び一般管理費	199,396	213,003
営業損失	△99,534	△123,317
営業外収益	1,123	491
受取利息	2	5
受取賃借料	907	390
その他	213	95
営業外費用	4,903	5,492
株式交付費	4,096	—
新株予約権発行費	594	5,362
為替差損	212	129
経常損失	△103,314	△128,317
特別利益	13	515
固定資産売却益	13	515
特別損失	1,287	—
特別退職金	1,287	—
その他	0	—
税引前当期純損失	△104,588	△127,801
法人税、住民税及び事業税	290	290
当期純損失	△104,878	△128,091

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	△89,524	△259,018
投資活動による キャッシュ・フロー	△37,348	△95,169
財務活動による キャッシュ・フロー	564,445	△1,442
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	437,573	△355,630
現金及び現金同等物の 期首残高	220,436	658,009
現金及び現金同等物の 期末残高	658,009	302,379

株主資本等変動計算書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	416,219	443,798	443,798	△104,879	△104,879	△68	755,070	14,063	769,134
当期変動額									
当期純損失 (△)				△128,091	△128,091		△128,091		△128,091
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)								12,290	12,290
当期変動額合計	—	—	—	△128,091	△128,091	—	△128,091	12,290	△115,800
当期末残高	416,219	443,798	443,798	△232,970	△232,970	△68	626,979	26,354	653,334

事業の内容

■ 研究開発

DNAチップ研究所は、ライフサイエンス研究とバイオ産業に貢献する研究開発型ベンチャー企業です。以下を常に心がけ、研究に取り組んでいます。


1. 「創造的革新」をモットーに
2. グローバル化を意識した最高レベルの技術を磨き
3. 信頼関係に基づく共同研究と自己啓発に努め
4. 国際的情報収集、先進的情報解析能力を駆使し
5. この分野で第一の研究ベンチャーとして
6. レベルの高い研究成果を出すのに貢献する

■ 研究受託事業

異なるプラットフォームを用いた多面的な研究受託サービスメニューの提供をいたします。実験計画のお手伝いから、実験、統計解析、論文作成など専門のスタッフが細やかにサポートいたします。

- マイクロアレイを用いた遺伝子発現解析、miRNA発現解析、ゲノム構造解析、再生医療研究向け品質評価（C3チェックサービス）
- 次世代シーケンサを用いた遺伝子発現解析、Small RNA解析、エクソーム解析、メチレーション解析、癌パネル解析
- Real Time PCR、デジタルPCRによる遺伝子発現解析、miRNA発現解析、ゲノム解析
- 統計解析サービス

■ 診断事業

- 肺がん血中遺伝子変異検査「EGFRリキッド」
- 肺がん組織遺伝子変異検査「肺がんコンパクトパネル」
- 関節リウマチ薬剤効果予測
- うつ病診断技術開発
-  MammaPrint（マンマプリント） 乳癌の再発リスクを予測する新しい検査サービス

■ 製品

-  TBONE EX Kit：硬組織（歯牙・骨）用DNA抽出キット



会社の概況

■ 会社概要

会社名 株式会社 DNAチップ研究所
 英文名 DNA Chip Research Inc.
 設立年月日 1999年4月1日
 住所 東京都港区海岸一丁目15番1号
 資本金 41,621万円
 従業員 32名 (内Ph.D. 7名 役員含)
 役員 代表取締役社長 的場 亮
 取締役 佐藤 慶治
 取締役 (監査等委員) 山田 國夫
 取締役 (監査等委員) 片山 登喜男
 取締役 (監査等委員) 佐藤 孝明
 加盟団体 財団法人バイオインダストリー協会 (JBA)
 NPO法人 バイオチップコンソーシアム (JMAC) 等

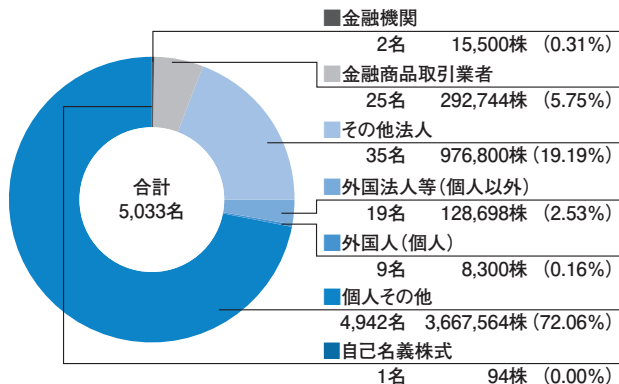
■ 株式の状況

①発行可能株式総数 10,080,000株
 ②発行済株式総数 5,089,700株
 (自己株式94株含む)
 ③株主数 5,033名

■ 大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社 エンプラス	848,000株	16.66%
藤井 衛	170,000株	3.34%
株式会社 SBI証券	120,638株	2.37%
枝松 七郎	84,400株	1.66%
小橋 一太	81,000株	1.59%
森 淳彦	79,000株	1.55%
藤尾 晋作	69,000株	1.36%
楽天証券株式会社	50,300株	0.99%
戸島 和博	47,400株	0.93%
J. P. Morgan Securities plc	43,200株	0.85%

■ 株主分布状況



■ 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

剰余金の配当 3月31日（期末配当金）

受領株主確定日 9月30日（中間配当金）

定時株主総会 6月

公告掲載方法 電子公告
電子公告は当社のホームページに記載しております。
ホームページアドレス
(<https://www.dna-chip.co.jp/>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の
口座管理機関 東京証券代行株式会社
東京都千代田区大手町二丁目6番2号
(日本ビル4階)

(郵便物送付先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先) 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
電話 0120-232-711（通話料無料）

・住所変更等のお申出先について

お取引口座のある証券会社にお申出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申出ください。

(ご案内)

少額投資非課税口座（NISA口座）における配当等のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当等を受け取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。

ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「株式数比例配分方式」をお選びいただくことができませんのでご注意ください。

NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

■ 当社ホームページのトップ画面



<https://www.dna-chip.co.jp/>